

平成27年度 病害虫防除技術情報 第4号

平成27年7月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

果樹カメムシ類の発生動向について

ナシやカンキツ類等の果樹に寄生する果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）は果実を吸汁し、被害を与える。また、果樹カメムシ類の発生量や園地での被害は、前年の越冬量やエサであるヒノキ毬果の量や気象条件に左右される。

本年は越冬量は少ないが、5月～6月の誘殺数が一部地域で平年より多いことから、園外からの飛来に注意し、早期発見、早期防除に努めることが重要である。

1. 春以降の発生の状況

フェロモントラップによる調査の結果、佐伯市、九重町で誘殺数が多かった。

平成27年5月1日～6月21日の誘殺数

○佐伯市米水津：708頭（平年 69頭）

平成27年5月1日～6月11日の誘殺数

○九重町：520頭（平年 134頭）

2. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により異なるため、園内外をこまめに見回り、飛来が確認されたら一斉防除を実施する。
- (2) 薬剤散布はカメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時から日没直後に行い、カメムシに直接薬剤がかかるようにする。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- (4) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

（ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>）

カメムシ類誘殺状況(防除員、振興局による報告)

